

～なかよく！いきいき！わくわく！～

町田っ子だより 第3号

第3回町田市幼保小連携推進委員会

2020年2月18日（火） しぜんの国保育園

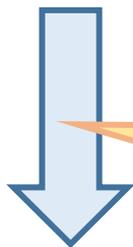
今年度最後となる第3回目の「町田市幼保小連携推進委員会」は、「実際の幼児教育の現場を見て、幼児教育の理解を深める！」という目的のもと、しぜんの国保育園の実際の保育の様子を見学させていただきながら、幼保小連携について協議しました。本号は、その当日の様子をお伝えいたします。



しぜんの国保育園

～当日の流れに沿って～

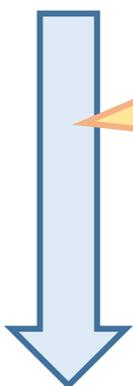
14:00 開会～目的の共有



最初に、今回の委員会の目的を共有しました。

- ◆ 幼児教育の現場を見ることで、幼児教育内容の理解を深める。
- ◆ 他保育士・教員と意見を交換し、様々な視点での気づきを共有する。
- ◆ 得た気づきを通し、保育・教育計画に生かす。

14:10 見学開始



園長先生のご案内のもと、各保育室の保育模様を見せていただきました。園児さんたちの活発な姿をたくさん見ることができました。

～しぜんの国保育園の保育模様～

幼児グループは、「アトリエ」や「音楽室」など、目的別に保育室を設けており、各園児さんは、自分がやりたいこと、やってみたいことをもとに選択をして継続的な遊びを展開していました。（園児さんがどこの保育室にいるのか保育士さんが把握するために、とても良い工夫も見られました。）一斉保育ではない保育はとても興味深く、子どもの主体性を大切にしている保育を実践していると感じました。

15:00 委員会開始

当日は、東京家政学院大学の丹羽先生もかけつけていただきました！非常に参考となるご意見もいただき、充実した一日となりました。



＜当日の様①＞

保育現場を見たあと、各委員の先生方の視点で気づいたことをまとめています。



＜当日の様②＞

2グループに分かれて、各委員の先生方同士で活発な意見交換がなされました。

委員会では、以下の①～⑤のテーマで協議をしていきました。
各テーマについて活発な意見交換がなされました。

＜テーマ＞

- ①幼児教育の現場を見た「気づき」の共有
- ②「気づき」をどう生かすか
- ③自身で工夫していること
- ④その他、意見交換したいこと
- ⑤来年度の予定の共有

意見交換メモ（一部）

- 子どもが主役だという印象を受けた。子ども一人ひとりのマイルストーンをきめ細かく設定し、保育にあたっているのだという印象だった。（幼稚園教員）
- 子ども自身が好きな遊びを0歳児の段階から選べる。「自分で選んでいる」という前提があるから、遊びに集中して取り組むことができる。そのような姿の子どもたちの姿が印象深かった。（保育士）
- 子ども一人ひとりを大切にする環境構成が良いと思った。教科にどのように関心を向けていくかが小学校側の課題。入学期の4・5月は15分刻みの授業にしたりして工夫を込めている。（小学校教員）
- 小学校に入学したての1年生は、教科に関わらずすべて「好き」な状態であるはず。小学校教諭はその気持ちをそのままのように伸ばしていくのか、ということが重要となる。小学校の取り組み過程において「できない」ことが「嫌い」に変わってってしまうのではないか。（小学校教員）
- 子どもの興味・関心に応じた主体性を大切にした保育は、さまざまなメリットがあると考えられるようになってきている。一方、小学校との接続の観点から考えると、興味・関心のないもの、または、まったく触れることのない世界観などに対して自ら引き受ける力が、教科の学びの中では求められる。その力がどこでどのように育つのかにも目を向けたい。（東京家政学院大学 丹羽先生）

しぜんの国保育園 園長 齋藤美和先生より



当園が一番大切にしていることは、「こどもを中心」とした暮らしを大切にした上で、働いている大人が働きやすい環境かどうか、笑顔で仕事ができているかどうかです。子どもは大人の笑顔が一番好きです。大人自身が幸せな保育者であることが子どもに伝わります。主体的な保育といっても、給食の時間や午睡の時間など、大人が主体となる場面も当然あります。子どもも大人も主体的な「小さな村」をあるべき姿として、バランスよく捉えています。

ご協力、ありがとうございました！！



委員会を終えて～事務局から～



【幼児期から児童期への気持ちの「ギャップ」】

委員会での意見交換の中で、「小学校に入学したての1年生は、すべて「好き」な状態から始まるはず。それが教科学習が始まっていく段階で、「嫌い」になってしまう」という言葉が印象的でした。

幼児期は、「遊び」を通して興味・関心のあることに夢中になったり、人とかかわったりする力などを育む時期で、保育・教育も工夫されます。しかし、児童期に入ると、教科学習を通して自ら主体的に取り組む力が求められていくために、興味・関心のないこともやらなければならない場面も増え、子どもたちの気持ちに「ギャップ」が生まれてしまいます。この「ギャップ」を埋めていくということが、ひとつの課題としてみえてきました。

【幼児期の保育士・教員の役割とは？】

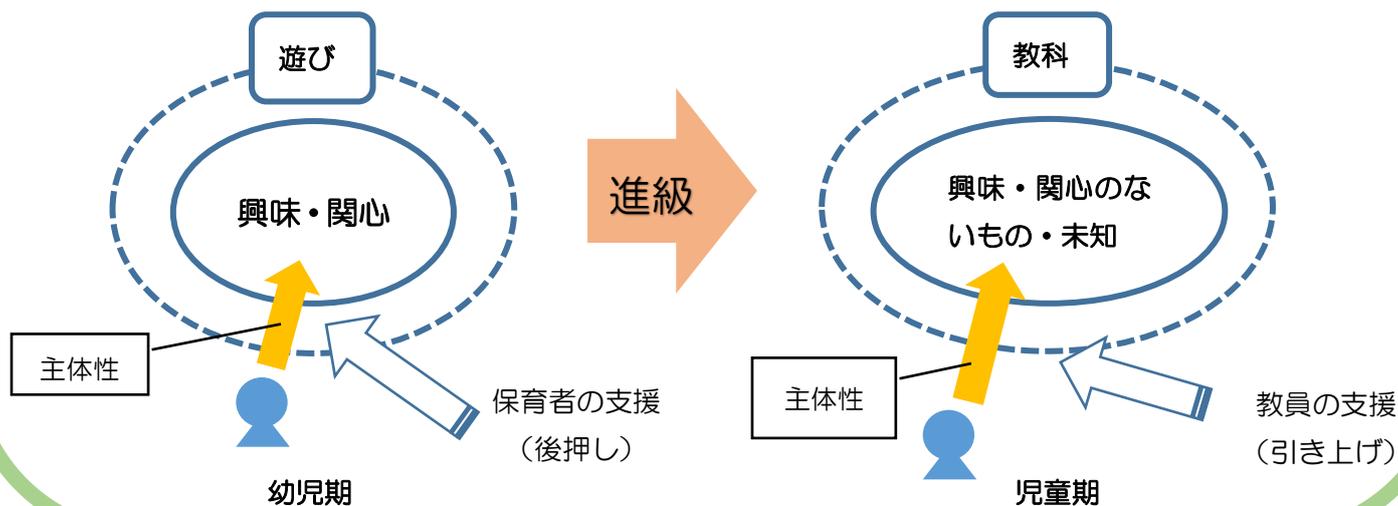
大人になったときに求められる力は、興味・関心のない分野についても引き受け、かつ、かかわっていく過程で自ずと興味・関心が湧いていき、主体的に取り組んでいくことができる能力です。出会ったことのない他者（ひと・もの・こと）に対して、興味・関心をもたない段階から引き受けて、自分で、あるいは他者とかがかかわっていきながら進めていくことのできる姿勢（いわゆる非認知能力）は、幼児期にどのような経験を積み重ねることで育まれていくのでしょうか。

まず幼児期に重要なことは、興味・関心のあることに主体的に取り組むことです。その過程では、楽しいこと以外にも大変なことやつらいこともあるでしょう。でも、そこで子どもが放り投げないような支援（「後押し」）をすることが保育者の役割ではないでしょうか。達成までのプロセスの先へ向き合わせるために、受け止めや励ましなどの言葉かけによるサポートを行うことで、くじけず粘り強く取り組むことによって得られる達成感を味わうこと、そういった経験を幼児期に連続的に積み重ねていく必要があります。

【児童期の小学校教員の役割とは？】

一方で、小学校入学時の子どもたちにとっては、興味・関心のないことや、まだ見ぬ未知の世界が広がっていきます。幼児期のように興味・関心のあることに主体性を発揮するだけでなく、もっと知らないことにも興味・関心を持ってもらう必要があります。小学校教員の役割とは、教科学習などを通して、子どもたちの興味・関心を広げ、それらに対しても主体的に取り組んでいけるような支援（「引き上げ」）をしていくことではないでしょうか。

幼児期から児童期にかけてこうした経験を重ねていくと、はじめて出会う他者（ひと・もの・こと）にも、積極的にかかわっていくようになり、たとえ難しい課題にぶつかったとしても、自分あるいは他者と協力して解決へ向かう姿勢が身についていくのだと思います。



～年度末を迎えて～

今回で「幼保小連携推進委員会」はひとまず区切りとなります。委員会では各回たくさんのご意見をいただき、より良い幼保小連携の在り方について考えていくことができました。参加いただいた皆様、大変ご多忙の中ご協力いただき、ありがとうございました。

また、先生方のご協力をいただきながら、本年度からアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの作成がスタートいたしました。これからまだまだ改善するべき点は多々あるかと思いますが、引き続きご協力のほど、宜しくお願い致します。

来年度も、町田市幼保小連携推進事業は町田市全体の幼保小連携をより促進していくために、様々な施策を行ってまいります。町田市の先生方におかれましては、引き続き、ご指導をいただけますと幸いです。

皆様の幼保小連携の取組みがあれば、

ぜひ取材させていただきます！

町田市幼保小連携推進事務局

042-724-2133まで！

